プラン・ニュース［2015 Autumn］No.100

Plan news

第4回
国際ガールズ・デー特集
「わたしはマララ」日本初特別試写会



トークセッション
池上 彰さん
インドの活動地域から女の子が来日

Because I am a Girl
エンジェル就任スピーチ 森星さん

発行：公益財団法人プラン・ジャパン

子どもと築く、未来のしくみ

Plan
プラン・ジャパン

国際ガールズ・デーにインドの女の子が来日。

10月11日
プリヤンカさんの活躍





右▶ Because I am a Girl エンジェルに就任したモデルの森星さんと一緒に。中央▶女の子への教育の必要性を英語でスピーチしました。左▶交流会の様子

Q 現在、どのような支援を受けていますか？

A プラン・インドに、経済的支援に加えて教科書などの学習教材も支給してもらっています。また、職業訓練も受けることができ、母の縫製の仕事を手伝っています。わずかですがお金を稼ぐことで、私は女の子ですが家庭で発言権を得ることができるのだと思います。

Q 何か伝えたいメッセージはありますか？

A 都会でも田舎でも、すべての親は男の子と女の子を平等に扱うべきだと訴えたいです。教育や家の手伝い、収入を得ることなどすべてにおいて、女の子が男の子に劣っているということはないからです。また、女の子はもっと社会参加をして機会の平等を主張するべきだとも思います。私は母校や今通っている大学で女の子に勉強を教えているのですが、そこでも、家庭内での意思決定からスポーツを楽しむときまで、もっと女の子が積極的になったほうがいいとアドバイスしています。

Q 大学生活は楽しいですか？何を勉強していますか？

A 専攻は哲学です。その他に英語や政治学の授業も取っていますが、特に政治学の授業は難しく教科書を理解するのも一苦労しています。政治学を今まで学んだことがなかったからだと思います。大学は家から約 5㎞のところにあって、自転車で 30 分くらいかかります。特に負担は感じていません。大学から帰ったら、家で縫製の仕事をしたり、読書を楽しんだりしています。

Q 女の子だから、という理由で苦労をすることは多いと思いますか？

A 母を含め、家庭でも女性の多くは“女だから”という理由で意見を言うことも許されず、無視される存在でした。教育を受ける機会もありませんでした。私自身も、父が亡くなった後は一層自由がなくなり、学校に行ったり外で自由に過ごすことも難しくなりました。そんな状況を変えてくれたのが、プランです。プランは私の家族や村の人に、女の子が教育を受けることの大切さを訴え、私に教育の機会を与えてくれました。

プリヤンカさんのある日のスケジュール

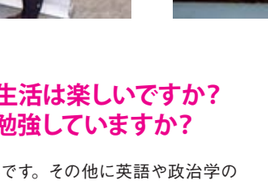
6:30	起床
6:30–8:00	朝食と家のお手伝い
8:00–14:00	大学で勉強
14:30–15:30	ランチ
15:30–16:30	自由時間
16:30–18:30	家のお手伝い
18:30–21:00	勉強
21:00	夕食
22:00	就寝



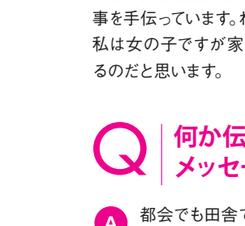
大学までは、毎日自転車を 30 分ほど漕いで通います



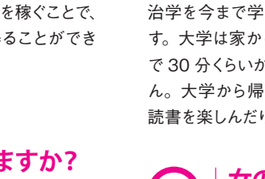
お母さんと３つ年下の弟と一緒に。お母さんは病気を患っています



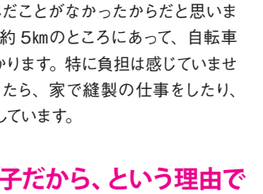
プリヤンカさんの家。父を失くして非常に貧しい暮らしをしていました



教科書を読む表情は真剣そのもの。学用品もプランからの支援を受けています



食事の準備や掃除など、家のお手伝いも積極的にします



家計を支えるため、プランから支給されたミシンで縫製の仕事をします

プリヤンカさんのインドでの暮らしをご紹介！

インド東部にあるオディシャ州に、家族３人で暮らすプリヤンカさん。貧しい暮らしを強いられていた一家でしたが、プランの支援でプリヤンカさんは教育や職業訓練を受けることができました。大学の勉強と家の手伝い、仕事と大忙しの毎日ですが、先生になりたいという夢に向かって充実した日々を過ごしています。

日本社会への力強いメッセージ



Priyanka
プリヤンカさん（18 歳）

インド東部のオディシャ州在住。10 月 11 日の国際ガールズ・デーイベントに登壇するため、来日。女の子への教育の必要性や、自分の将来の夢などをスピーチしてくれました。



教育を受け社会で働くことなどを通して生きる自信を得ました

こんにちは。私の名前はプリヤンカ。国際ガールズ・デーのイベントに参加するため、インドから来ました。父は私が11歳のときに病気で亡くなり、経済的理由から、家族は弟のみに学校を続けさせようとしました。私が住む地域では、やがて結婚をして家を出る女の子への教育は無意味だと思われているからです。教育を受けた女の子は、結婚相手として敬遠されることもあります。そんななか、プランの粘り強い家族への説明とサポートで、私は高校を卒業し大学に通うことまでできました。

さらに、プランの訓練プログラムに参加することもできました。そこで身に付けた技術と、プランから支給された生地やミシンを使って、縫製の仕事をして家計を助けています。

大学で学ぶことで、何より私は自分に自信をもつことができました。今、私は自分でお金を稼ぐことができるし将来について考えることができます。家族や村のお手伝いをすることだってできるのです。

私は自分の勉強や家のお手伝いに加えて、よりよい社会のためにできることをしたいです。特に、女の子の支援に興味があります。私の住む地域では、女の子は男の子に劣ると考えられ、教育の権利を奪われることが多いからです。将来は先生になって、貧しい子どもや教育を受ける機会がない子どもに勉強を教えたい。そして、誰もが教育を受ける権利をもつ社会にしたいと思います。

女の子に教育と平等なチャンスを与えることは、とても重要なことだと思います。そうすれば、女の子は家事だけでなく外で働いてお金を稼ぎ、男の子と同じように家族を支えることだってできるのです。



学校へ移動中。インドとは様子が異なる日本の電車に大興奮！



外務省国際協力局の水越英明参事官を訪問し、女子教育への支援を訴えました



学校訪問の途中の新井薬師で、おみくじをひきました



玉川聖学院中等部・高等部での、プレゼンテーションの様子



大妻中野中学校・高等学校にて。生徒による手話付き合唱パフォーマンスも



スタッフと和食にトライ。でもやはり、カレーが恋しくなったようです

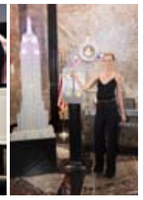
初めての海外視察！日本の学校や外務省を訪問。

生まれて初めての海外で、日本に約１週間滞在。２つの中学・高校への訪問に加えて、外務省国際協力局参事官と面会したり、メディア取材に対応したり…。大忙しのスケジュールでしたが、終始笑顔。「日本の方たちはフレンドリーで心が温かいのがうれしかった。スピーチも緊張せず楽しんでできました！」と、コメントしてくれました。

in the WORLD

第4回「国際ガールズ・デー」のイベントは、
世界各地でも行われました。
その一部をご紹介します。





アメリカ

「国際ガールズ・デー」を目前に控えた９月末、ニューヨークでは国連総会が開かれました。それに合わせてプランは、ミシェル・オバマ米大統領夫人や女優のシャーリーズ・セロンさんらとともに、フィリピンの女の子ヌルファハダさんが参加するトークイベントを開催。女の子が教育を受けることの重要性を訴えました。また、今年もエンパイア・ステート・ビルをピンク色にライトアップ。モデルのトニ・ガーンさんが点灯式に出席しました

ノルウェー



プラン・ノルウェーの主導で、女の子への暴力の撲滅を訴える「#MyLaw」キャンペーンを実施。オスロ市庁舎前広場で、ジェンダーに基づく暴力についての授業が行われました

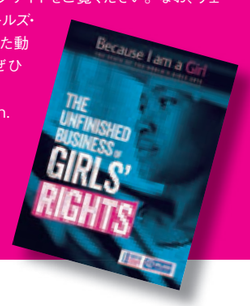
ニカラグア



首都マナグアで、2,500 人が参加した５キロのマラソン大会を開催。BIAAG キャンペーンの一環として、ジェンダー平等と女の子が暴力のない環境で生きていく権利の促進を訴えました

2015年度版「世界ガールズ白書」が完成しました！

今回のテーマは、「女の子の権利に関する未解決の問題」。各国の政治家、活動家、ジャーナリストなど様々な人たちが、それぞれの視点や意見に基づいて、この問題について語っています。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。なお、ウェブサイトでは、「国際ガールズ・デー」のために製作された動画も公開中。こちらもぜひチェックしてください！
https://www.plan-japan.org/girl/news/151009.html



14:45 映画『わたしはマララ』日本初の特別試写会



昨年、史上最年少の 17 歳でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの生い立ちを振り返り、その素顔に迫ったドキュメンタリー映画『わたしはマララ』。12 月 11 日（金）の一般公開を前に、日本初となる特別試写会が行われました

16:15 池上 彰さんトークセッション



参加者とともに映画を鑑賞されたジャーナリストの池上彰さんと、進行役のプラン・ジャパンのジェンダー・アドバイザー、福沢恵子さんが登壇。映画や世界の女の子を取り巻く状況等について、わかりやすく内容の濃いトークセッションが展開されました（詳しい内容は、P6 ～ 7 をご覧ください）



最後は池上さん、福沢さんに加え、プリヤンカさんと佐崎さんも再びステージに登場。両手で翼を作った「#Girl4President」ポーズで記念撮影を行い、メインイベントが終了！

17:15 交流会



来場者の方々、スタッフ、ボランティアなどが集まり、プリヤンカさんや福沢さんを囲んでの交流会を開催。クランベリージュースで乾杯後、思い思いに交流を楽しみました
●第４回「国際ガールズ・デー」イベントの詳細は、ウェブサイトでもご紹介しています！
https://www.plan-japan.org/girl/news/151016.html

国際ガールズ・デーイベント

「羽ばたけ！ 世界の女の子」開催！

～ Unlock the Power of Girls ～

2015年10月11日（日）に第4回を迎えた「国際ガールズ・デー」。
今年も東京・渋谷の国連大学ビルで、プラン・ジャパン主催のイベントが開催されました。
多くの方にご参加いただき、盛り上がりを見せた当日の様子をご報告します。

会場撮影：ウシオダキョウコ

in JAPAN



この日の来場者は約 300 人。場内には、翼をモチーフにした写真を投稿する SNS アクション「#Girl4President ～羽ばたけ！ 世界の女の子～」のブースも設けられ、多くの方に参加していただきました。ありがとうございました！



会場内には、Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーンを支援してくださっている企業等の PR ブースのコーナーも設けられ、多くの来場者の関心を集めていました

14:00 メインイベント「羽ばたけ！ 世界の女の子」



開会の辞に引き続き、国連人口基金東京事務所長の佐崎淳子さんが登壇。「女の子への投資を最優先に行い、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、ともに歩んでいきましょう」という国連・国連人口基金のメッセージを発表しました



BIAAG エンジェルに就任したモデルの森星さんが登場し、「女の子たちが秘めたパワーを発揮し、女性であることを楽しんで生きることができる世界のために、私と一緒に立ち上がりましょう!」とスピーチ。続いて、プラン・インドの活動に参加しているプリヤンカさんがステージに上がり、ツーショットの記念撮影。そしてプリヤンカさんが、自らの体験や将来の夢などについて、英語で力強くスピーチしました（詳しい内容は P2 ～ 3 をご覧ください）

11:30 ユースワークショップ「世界中の女の子が羽ばたくために」



プラン・ジャパンの学生グループ G-SChooL が、今年も学生を対象としたワークショップを実施。今回は、途上国の女の子たちが直面している３つの問題＝早すぎる結婚、登校時の困難、児童労働について話し合いました

13:15 第2回「夏休み読書感想文コンクール」表彰式



1,700 人の応募者の中から、計６人の入賞者が決定。審査員長の作家・角田光代さんから講評をいただき、代表作品が紹介されました。また今回は、100 作品以上の応募があった６つの中学校・高校に、「学校賞」が贈られました



入賞おめでとうございます！

［最優秀賞］中込 蓮さん（中学１年）／米子佳蓮さん（高校２年）
［優秀賞］粂 瑞紀さん（中学１年）／伊藤可子さん（高校３年）
［特別賞］安田都々さん（中学３年）／仲間愛梨さん（高校３年）

● 入賞作品と講評、学校賞はウェブサイトでご紹介しています
https://www.plan-japan.org/topics/news/151015info/

キーパーソンに聞く

池上彰さん

●ジャーナリスト

教育を受けることは自分を知る一歩であり、生き方を変えます。

わかりやすいニュース解説で人気のジャーナリスト、池上彰さん。国際ガールズ・デーに参加し、途上国の女の子の現状や日本人が世界のためにできることを語ってくださいました。

※聞き手はプラン・ジャパンのジェンダー・アドバイザー、福沢恵子さんです。



福沢恵子さん（以下略）国際ガールズ・デーのイベントで、今年12月に公開予定の映画『わたしはマララ』を鑑賞いただきました。

池上彰さん（以下敬称略）不覚にも涙が出てしまってどうしようかと。周囲も泣いているのに気付いてほっとしました（笑）。この映画を見ると、いかに教育が女性の生き方を変えて人々を動かすかということがよくわかりますね。そしてラストで、マララさんが「父がくれたのは名前だけ。結局は私が選択した人生です」と語る姿に心を打たれました。親というのは子どもの将来をいろいろ考えますが、子どもは一人の人間として独自の道を歩んでいく。この映画は〝父親の夢と、その中で、新たに自立する一人の女性の物語〟だと思いました。「これが私の人生」と言い切り、弱音を吐かないマララさんの表情にもぐっときました。

――昨年、マララさんの出身地であるパキスタンに取材に行かれたそうですね？

池上　日本人がパキスタンの少女たちに読み書きなどを教える非公式教育の現場を取材しました。パキスタンの田舎ならではの苦労がありまして、まずは長老のところに行って「女性たちに読み書きを教えたいんです」と許可をお願いしないといけない。長老の許しがないと、親は娘が学校に通うことになかなか賛成しないのです。驚いたのは、「読み書きができるようになると、娘が自宅の電気料金の請求書が読めるようになるので役立つ」と、話す親がいたことです。一方、女の子たちは「初めて自分の名前が書けたことがうれしい」と言っていましたね。私たちは忘れてしまいがちですが、実は自分の名前を書くことは自分の存在を知る一歩でもある。読み書きができると自分の存在や国の観念が生まれ急激に世界が広がるんです。

――池上さんご自身は、女の子への教育の大切さをどのように捉えていますか？

池上　衛生観念が身に付き、彼女たちが将来子どもを持ったとき、乳幼児死亡率を下げられる点が大きいと思います。たとえば、先進国から粉ミルクをもらっても、その缶に書いてある文字が読めないと、粉ミルクを溶かすために水たまりの水を使ってしまう。そうすると、子どもが下痢を起こして死んでしまうということが、実際に起きるんです。小さい頃に学んだ衛生観念は、大人になっても結構しみついているもの。実際、私は小学校で学んだ「ハンカチを左のポケットに入れること」を今でも続けています（笑）。

――途上国の女の子支援を含めて、世界のために私たち日本人ができることは何だとお考えですか？

池上　ダライ・ラマにインタビューしたときのことです。「日本の若者はいろいろな悩みを持っていたり、どうやって生きればいいのか分からず自殺してしまう人もいる。一言メッセージをお願いします」と質問したところ、「世界には困っている人がいるから、そこに助けに行けばいいじゃないか。そうすれば、自分が世界で必要とされていることがわかる」と言われました。その一言に尽きると思いますね。短期間でもいいので、とりあえず世界を見に行ってほしいです。そして、今でしたら特に難民問題に関心を持っていただきたい。〝21世紀のアラブ民族の大移動〟とも言えるヨーロッパに押し寄せる難民に、豊かな国に住んでいる私たちに何ができるのか考えることが大切だと思います。

――日本の若者は内向きになっていると言われることがありますが、もっと外に出たほうがいいということですね？

池上　はい。日本国内で生きづらさを感じていたり、いろいろな悩みを持っている人が海外に行くと、自分が必要とされていることがわかると思います。また、世界に「日本っていい国」と評価されることは、安全保障にも繋がると思うんです。個人のアクションで日本のファンを増やすことも立派な平和的行動だと思いますよ。

――これからの未来を背負う若者たちにメッセージはありますか？

池上　まずは、自分の国のことをよく知り、説明できるようになること。２つ目は、日本の英語教育を問題視するばかりではなく、自らが世界の人に向けて語るべきものを身に付けてほしいです。国際会議などの立食パーティーにいると実感するのですが、日本人は語るべきことを持っていない。ついつい昼間の会議の話や仕事の話を持ち出して嫌がられて、相手からは「美術とかオペラの話をしよう」と言われてしまう。学生時代、受験勉強しかしていなかったがために、語るべきことを持っておらず、絶句するということがよく起きるのではないでしょうか。英語がしゃべれないのではなく、英語で語るべきものを持っていない。若い人にはぜひ、今のうちから、英語で語るべきことを身に付けてほしいと思います」

Photos/ ウシオダキョウコ



Profile

いけがみ・あきら
1950 年長野県生まれ。大学卒業後、NHK に記者として入局し『週刊こどもニュース』ではニュースに詳しい「お父さん」役として編集長兼キャスターを担当する。2005 年からフリーのジャーナリストとして活躍。



記者会見でインドの学生プリヤンカさんを応援！

プラン・インドの活動に参加している大学生のプリヤンカさんとともに、記者会見にも出席。「男の子と女の子の明確な役割分担がなくなるような社会を作りたいので、池上さんも一緒になって変えてほしいです」とプリヤンカさんが協力を要請をすると、力強い笑顔で「頑張ります」と答えていらっしゃいました。さらに、「マララさんは有名人になりたいと願ってなったわけではないと思います。自分に降りかかる問題と向き合い、最善を尽くしてきた結果が今の姿。彼女が特別な人間なのではなく、世界には大勢のマララさんがいる。プリヤンカさんはインドのマララさん」と、その活動に敬意を表しました。

BIAAGキャンペーンから生まれた「国際ガールズ・デー」

今年10月11日に第4回を迎え、世界中でさまざまなアクションが行われた「国際ガールズ・デー」。女の子の権利について認識を深めてもらうため、プラン・カナダが中心となって国連に制定を働きかけました。今回はその活動を振り返ります。



女の子への教育を訴え
行進するウガンダの子どもたち

2007年からスタートしたBecause I am a Girl（BIAAG）キャンペーンでは、その一環として毎年9月に「ガールズ白書」をまとめ、発表してきました。「国際ガールズ・デー」制定の働きかけのきっかけとなったのは、この「ガールズ白書」です。女の子を対象に、社会的・経済的数値を調べた初の調査報告に世界の関心が集まり、「そのテーマの重要性に気づいた」と中心人物であるローズマリー・マカーニー（前プラン・カナダ事務局長兼CEO）は語ります。

オンライン嘆願書がカナダ政府を動かす

国連の日の中に、女性デーや子どもの日はありますが、女性デーの100年以上の歴史のなかで、女の子がテーマに取り上げられたのはわずか2回。各国政府や、地域や宗教のリーダーたち、保護者たちに、責任を持って問題解決に取り組んでもらうために「女の子の日をつくろう」という機運が高まりました。

2009年、プラン・カナダは、国際ガールズ・デーの制定を働きかけるため、女の子や女性たちに呼びかけ、オンラインで何十万もの嘆願書を集めました。また、すべての政党に、途上国の女の子たちの抱える問題について訴え、カナダ首相がリーダーシップをもって働きかけることが国会決議されました。

第1回ガールズ・デーはマララさん襲撃の2日後

2011年2月にニューヨークで行われた「国連女性の地位委員会」には、プランの活動地域から集まった12人の女の子たちが参加。「国際ガールズ・デー」を設け、女の子の権利促進につなげるよう呼びかけました。同時に、カナダの女性の地位担当大臣のアンブローズ氏から、公式にこの議題を取り上げるよう約束を取りつけました。

2011年10月、アンブローズ大臣は国連総会第3委員会にてこの件を国連決議として提案。12月19日には、10月11日を「国際ガールズ・デー」とすることが公式に決定されました。

ニューヨークで最初のガールズ・デーが祝われた2012年10月11日。そのわずか2日前にパキスタンの活動家マララ・ユスフザイさんが襲撃されるという事件が起きました。記念すべき第1回国際ガールズ・デーは、直前のマララさんの悲劇のため、期せずして女の子に注目が集まったほろ苦い日でもありました。

あなた自身が知り、行動することが変化をもたらすのです



ローズマリー・マカーニー
（前プラン・カナダ事務局長兼CEO）

世界銀行をはじめ、政府機関や国連機関にて途上国開発に従事。数々の民間部門、非営利組織、コミュニティ団体の理事を務め、この間に100を超える国々を訪れた。2014年には「カナダで最もパワフルな女性100人」※に選出される。

「国際ガールズ・デー」の制定では、カナダ政府、国連での働きかけに続いて、各国のロビー団体、委員会やプラン各国を巻き込み交渉しました。どう進めたらいいかわからないなか、とにかく懸命に訴え続けた結果、14カ月で「国際ガールズ・デー」の制定にこぎつけました。

私はいつも、「乗り越えられない試練などない」と信じています。変化はあなたにもその周りにも常に起きています。職場でも家庭でも、所属しているグループやコミュニティでも、あなたは変化を起こせます。自分のやり方でいろいろなことを知り、態度を決め、行動し、周りを巻き込むことで、自分たちや他の人々の人生に変化をもたらすことができるんだ、と勇気を持ってください。自分自身と、やるべきことを知ることからすべてが始まります。

紀元前20年に、ローマの詩人ホラティウスはこう書きました。「思い切って始めれば、半分達成したも同然だ。さあ、知りなさい、始めなさい」。

ホラティウスの言葉、ラテン語のSapere audeは、今日では、「さあ、賢く在りなさい」とも訳されています。私もみなさんに、この言葉を贈りましょう。さあ、知りなさい、行動しなさい、賢く在りなさい。

※女性のエグゼクティブネットワーク（WXN）による「Top 100 Award：Canada's Most Powerful Woman」



国際ガールズ・デーを祝う女の子たち（ニジェール）

プロジェクト実施中の3カ国から元気な女の子たちの声が届きました！

7月からスタートした5つのGirl's Project。
活動に参加している女の子たちの声が届きました。彼女たちの活躍の一部をご紹介します。

カンボジア
「女の子の自立を助ける職業訓練プロジェクト」



私は他の研修生たちと先生の家に住みながら、毎日縫製指導を受けています

●主な活動内容
対象3州の公立職業訓練校などにおいて、美容（ヘアとメイクアップ）、縫製、養鶏、結婚式の花婿と花嫁の着付けや式場の飾り付け、地元料理などの職業訓練を実施しています。

現在までの活動ハイライト

対象3州でこれまでに101名の選考が終わり、9月中旬から料理や縫製、美容に関する実際の職業訓練が始まりました。研修生のニーズに合わせた3つのコースは、1：公立職業訓練校での訓練 2：長距離の通学が困難な女の子のための地域ベースの職業訓練 3：すでに起業している専門技術者から直接指導を受ける徒弟制度型の訓練。すべての訓練を州労働職業訓練省が管轄し、訓練生は自分の事情に合わせてコースを選ぶことができます。



職業訓練で高い技術を身に付け生活を良くしたい

チョエムさん（23歳）

チョエムさんは、母親と2人暮らし。10歳で小学校に入学。6年生になった16歳のときに小学校を中途退学し、家事や畑仕事をしています。このプロジェクトは、公民館の掲示板で知りました。

「地域の人々はみな貧しく、同じような年代の若い人たちに仕事がないことが大きな問題です。以前から興味があった縫製の技術を、このプロジェクトで身に付け、生活を良くしたいと思います」。



他の訓練生と先生の家に住んでトレーニングを受けています

ヘアとメイクアップを学び自分のお店で商売を始めたい

ホエムさん（17歳）



ホエムさんは、8歳で小学校に入学しましたが、中学校2年生のとき、経済的理由により中途退学。母親と弟の3人家族です。職業訓練のない日は、牛の世話をしてから宝くじを売る仕事をしています。「私の家族は貧しく、食べ物を買うことにも苦労しています。職業訓練でヘアとメイクアップの技術を身に付け、お店を始めて、家族みんなを助けたいと思います。このプロジェクトのおかげで技術を得られるし、家族のことも気にかけてもらえるのでとてもうれしいです」。

コロンビア
「子育て・家族計画サポートプロジェクト」

●主な活動内容　18歳未満の妊娠中の女の子とパートナーが、乳幼児のケアや育児方法を学ぶほか、地域の若い女の子を中心に性と生殖に関する健康を守るための十分な知識を得られるように支援します。



プロジェクトのワークショップに参加するダニエラさん（右端）



プロジェクトのワークショップは楽しい！他の人にも働きかけていきます

ダニエラさん（仮名・14歳・中学2年生）

両親ときょうだいの5人家族で仲良く暮らすダニエラさんは、ボランティア活動を行う活発な女の子。これまで2回、プロジェクトのワークショップに参加し、この地域における伝統的な「男性らしさ」と「女性らしさ」の価値観やジェンダーについて学びました。

「このプロジェクトのおかげで、私だけではなく多くの女の子たちが、自分たちを大切に思うことができるようになるでしょう。この地域では、勉強を中断し、早い段階で性行動による望まない妊娠をしてしまい、結果的に貧困のサイクルに入ってしまうことが多くあります。ワークショップを通して学ぶことで、自分で将来を決めることができるようになると思います。ワークショップはとても楽しいです。参加している女の子も男の子も自分の人生を変え、そして地域の人々にも人生をより良くしようと働きかけるつもりです。始まったばかりですが、きっとうまくいくと確信しています」。

ジンバブエ
「女の子が安心して学ぶ寄宿舎建設プロジェクト」

●主な活動内容　学校の敷地内に女子生徒のための寄宿舎（4校に各1棟）を建設し、備品としてベッドや机、椅子を支給するほか、寄宿舎管理を担当する「学校開発委員会」を指導します。



説明会で現状を語るリジーさん（中央）



新しい寄宿舎で勉強に集中できることを楽しみにしています

リジーさん（17歳・高校1年生）

リジーさんは、一夫多妻の家族に生まれ、2番目の妻である母親の8人の子どものうちの7人目です。1番目の妻には7人の異母兄弟がおり、彼らから身体的な暴力や言葉の暴力を受けてきました。父親は退役した軍人で、母親は心臓が悪く、ほとんど寝たきりの状態です。

家から遠い学校に通うため、Oレベル（中学）では女性の先生が好意で家に下宿させてくれましたが、彼女が亡くなって下宿する場所を失ってしまいました。現在は、同級生と一緒に、酒場に近い、電気も水道もない非公式の粗末な下宿屋を間借りして学校に通っています。「学校が運営する寄宿舎ができれば、女性の寮長先生が一緒に生活するので、安心して暮らせます。電気や水道もあるので生活が楽になり、勉強に集中できると期待しています」。プロジェクトの説明が対象校で始まり、リジーさんも参加しました。プランと教育省との話し合いも始まっています。

ご支援をお待ちしています

Girl's Projectは継続的にも、1回でもご支援いただけます。右記のBIAAGキャンペーンサイトからお手続きください。プロジェクトの進捗については、ウェブサイトで報告しています。メールマガジンでもご案内しますので、ぜひご登録ください。

http://www.plan-japan.org/girl/

保健や子どもの社会参加に力を入れ、子どもの権利に関して大きな効果を達成

皆さまのご支援のもと、プラン・スポンサーシップの活動が地域にどのような効果をもたらしたのかをご報告します。第2回で取り上げるのは、インドネシアの中部ジャワ州にあるグロボガン県。学校に通わない子どもが多くいることや、屋外排泄の伝統があって保健面で環境が整っていないなど、さまざまな課題がありましたが、改善が見られています。子どもの権利を守る法整備も進み、持続可能な開発が期待できます。

【インドネシア・グロボガン県はこんなところ】 ジャワ島にある中部ジャワ州に位置する。農業が主要産業ですが、石灰岩に覆われていて農業には適さないうえ、乾季には深刻な水不足に悩まされます。また自然災害にしばしば見舞われる地域でもあります。



Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーン大使に、グロボガン県の女の子・ヌルルが選ばれました。写真は県内の学校を訪れ、子どもの権利フォーラムや BIAAG キャンペーンについて講演したときのもの



グロボガン県は洪水など自然災害も多い地域。子どもたちには、負傷した人の看護や避難方法などに加えて、災害時の対処法も教えました

First Phase 2005-2009

就学前・初等教育の質の向上に務めて

第一段階では、乳幼児保育プロジェクトに取り組み、従来の就学前教育の活性化を進めました。また、学校を途中で辞めてしまう子どもの数を減らすため、小学校の改善に力を入れました。具体的には、教師の質を高めることと、参加型の授業や学習方法を取り入れることで、子どもが学校をより楽しいと思えるようにしました。また、性別や心身の状態に関係なく平等な教育機会を提供することや、親がもっと教育に関わることも重視しました。一方、大人や青年を対象に、保健衛生プログラムや若者の生計向上プログラムを実施し、基本的な生活環境を整えました。





（上）地元の民間業者を支援して、住民が安価で家庭用トイレを購入できるようにしました。また、トイレ建設に必要な資金を家庭に融資する仕組みも作り、屋外排泄の減少に大きく貢献しました （下）大人を対象に、小規模事業のトレーニングや融資も実施。22歳のスシは支援のおかげで海外に出稼ぎすることなく、自分の家で2歳の子どもの面倒を見ながらお店を営むことができるようになりました

Second Phase 2010-2011

衛生的な環境作りで屋外排泄ゼロを目指す

屋外排泄が習慣化していた住民を対象に、衛生的で健康的な生活推進キャンペーンを実施しました。これをきっかけに、この地域の大人と子どもは昔からの屋外排泄による環境汚染の弊害を考え直すように。下痢やマラリアなど、屋外排泄により引き起こされることが多かった病気が減り、大人も子どもも清潔で安全な環境で生活することができるようになりました。

Third Phase 2011-2012

子どもの社会参加に注力 女の子がBIAAG大使に

この時期には、特に子どもの社会参加と若者のエンパワーメントに力を注ぎました。前者では、人前でのスピーチなど、子どもたちが自分の意見をきちんと述べられるようになるトレーニングも実施。Because I am a Girl（BIAAG）キャンペーン大使にグロボガンの女の子が選ばれ、2012年N.Y.での第1回国際ガールズ・デーイベントにも参加しました。



環境問題や子どもの権利を訴える音楽団体を、子どもたちだけで結成し、パフォーマンスを通して啓発活動を行いました。子どもへの教育は、その未来を拓きます



2014年10月、プランの働きかけにより、グロボガン県政府は子どもの保護に関する条例第15条を提唱することに。後に、グロボガンは子どもに優しい州として、インドネシア政府から表彰されました

Fourth Phase 2013-2014

コミュニティの持続した自立へ

LPADという名のコミュニティ運営の子ども保護委員会が設置され、プランはこのメンバーに対してトレーニングや指導、助言を実施。活動の成果のひとつとして、女の子の教育に関する嘆願書に6万6,000人以上の署名が集まり、5,000人以上の子どもたちに手が差し伸べられました。こうした活動のなかで行政との交渉力を身につけて、グロボガン県政府に子どもの保護に関する条例第15条を提唱することに成功。これにより、子どもを中心とした開発活動に対する予算の獲得が可能になりました。こうしてプランの支援が終了した後も、子どもの権利・保護に基づいた、よりよい社会への持続可能な開発が期待できます。今後プラン・インドネシアは、より支援を必要としている東部へ活動を移していきます。

現地の人の生の声をお届け！ VOICES

イカさん



プランが近所に水道を引いてくれたから、もう水を汲みに川まで行く必要がなくなりました。水は100mの管を伝って流れてきます。今は蛇口を押すだけで、水を飲むことができるんです！

トリさん



私は、若者向けのトレーニングプログラムに参加するのが大好きです。性と生殖に関する健康と権利や、学校や家庭における暴力についてもここで学びました。知識を得たおかげで、今は自分を身体的・精神的暴力から守る方法を知りました。

数字で見る活動の成果 スポンサーの支援でこんなに変わりました！

● 就学前教育を受ける5歳以下の子どもの数

819人（2004年）

▼

7万1,500人（2015年）

毎年平均6,500人ずつ増え、飛躍的な伸びを示しました。

● 完全母乳育児の割合

16.3%（2010年）

▼

47.7%（2012年）

母乳で育てることは、乳児の栄養や免疫力の面で良い効果があるとされています。しかし、インドネシアを含めて途上国では知識不足や風習、就業などの理由から、早い時期から水や人工乳、離乳食等で子どもを育てる母親が多いのが現状です。

※グロボガン県プラン活動地域のデータ

※これは世界各地で行われているプラン・スポンサーシップの一例です

途上国のHIVとエイズ対策はもう十分？

国連がエイズに関する開発目標が前倒しで達成されたと発表するなど
一見終息ムードが漂うHIVとエイズ対策。カメルーンでのプランの取り組みとともに
いま開発途上国で取り組まなければならないさまざまな問題を内山職員が解説します。



リポーター：内山雄太職員（コミュニケーション部）



自発的にHIV検査を受ける母子

成果は数字に現れてはいるが…

今年7月、国連合同エイズ計画（UNAIDS）は、〝国連ミレニアム開発目標（MDGs）の1つである「2015年末までに世界のHIV感染者1500万人が抗HIV治療を受ける」を9カ月前倒しで達成した〟と発表しました。

しかし、HIVとともに生きる人々3690万人の90％は途上国に暮らし、その大半をサハラ以南アフリカとアジア太平洋地域が占めており、いまだに公衆衛生上の大きな問題です。2014年には1490万人が抗HIV治療を受けましたが、これは治療が必要な人の40％に過ぎません（WHO）。

エイズ孤児や服薬の継続などさまざまな問題が

このようにHIV対策はまだ十分ではなく、さらなる対策の推進が必要です。HIVとエイズは働き盛り世代の命を奪い、残された家族の貧困を悪化させます。エイズ関連の病気で親を亡くした孤児は学校に行かなくなり、家計のために児童労働に従事することで、暴力や虐待に巻き込まれやすくなります。

また、高品質で安価なジェネリックの抗HIV薬が需要に対して十分に供給されていません。長期の服薬継続も大きな課題で、服薬率が95％を下回ると治療成功率が50％を切るという報告もあります（Paterson DL et al: Ann Intern Med. 133:21, 2000）。

このように、開発目標に設定されている問題だけではなく、付随するさまざまな問題にも取り組まなければなりません。

カメルーンにおけるプランの取り組み

カメルーンではHIVともに生きる人々は60万人と世界で14番目に高く、その66％は女性と子どもです。※プランは2012年より、中・北西部で「HIV予防とケア」プロジェクトを推進してきました。

本プロジェクトの特徴の1つは、情報通信サービスを取り入れたことです。メッセージを妊婦の携帯電話に送信し、定期的な受診を促しています。また、地域の男性たちに、妻の健診やHIV検査への付き添いや家事に協力する重要性を啓発しています。貧困対策にも力を入れ、小規模農業や畜産業などの起業を支援しています。

プランはこれからもHIVとエイズの終息を目指して、保健、教育などさまざまなセクターと協働しながら予防・治療対策を継続していきます。

※世界子供白書2015要約版、ユニセフ

VOICES



「初めて次回の受診日を知らせるメッセージを見たときはとても興奮し、一刻も早く夫に知らせたくてウズウズしていました。彼が仕事から戻るや否や、“保健所から私に案内が来たのよ！”と大声で報告。夫も携帯電話の画面を見て興奮していました。そして、保健所に行く日の朝、夫は私を早く起こしてくれたのです。保健所で次回の受診日を聞いただけではどうしても忘れてしまうので、また、近づいたらメッセージを送ってくださいね」（妊婦のハワ・モハマドさん）

ボーナス月に増額もできます

プラン・マンスリー・サポーターのご支援は、毎月のご寄付とは別に、記念日のある月やボーナス月など、決まった月に増額設定もできます。お申し込みは service@plan-japan.org へ、件名に「プラン・マンスリー・サポーター寄付額変更希望」とご記入の上お送り下さい。お問い合わせ：プラン・ジャパン　支援者サポート部
TEL：03-5481-6100

ハイチ「水と衛生プロジェクト」

住民の自助努力によるトイレ建設を進めています

外務省の支援を受け、プラン・ジャパンがプラン・ハイチと共同で進めているプロジェクトを現地からリポートします。

リポーター：林 美穂職員（プログラム部）



支援で建てた貯水槽の前で

ハイチにおける水と衛生プロジェクトは、外務省の日本NGO連携無償資金協力の支援を受け、2013年より複数年にわたりプラン・ジャパンがプラン・ハイチと共同で実施しています。

プロジェクトは、農村部の学校とコミュニティにおける、安全な水へのアクセスの向上・屋外排泄の削減を目指しています。1期目は雨水・湧水貯水槽が6つの学校に建設され、1500人を超える生徒、教師、近隣コミュニティが安全な水を利用できるようになりました。また、375世帯が世帯トイレの建設・修繕に取り組み、コミュニティにおける衛生環境も向上しました。

コミュニティの主体性が成果を持続させる鍵

このような成果を達成するのは容易ではありません。2010年のハイチ大震災とコレラ蔓延を機に多くの支援が入り、住民の援助依存体質が増大しているのも事実で、本事業への賛同が得られにくいのです。

プロジェクトでは、世帯トイレの建設と維持管理は各世帯の責務であると住民に伝え、一切の資金・資材を提供しません。彼ら自身がトイレや手洗いの必要性を理解し、建設・修繕を決意し、さらに他の住民へ働きかけるまで啓発活動を続け、最低限必要な技術・知識を伝授しています。コミュニティの主体性を高めることが、成果を出し、それを持続させる最も重要な鍵だからです。

「プランのおかげで、子どもが手洗いをするようになった。コミュニティ全体の衛生環境もよくなった」。このような声を聞くたびに、やりがいを感じます。今後も住民の相互扶助を促進することに力を入れ、衛生行動が着実に身に付くまでモニタリング活動を続けていきます。



はやし・みほ
アメリカ大学院で持続可能開発学修士号取得。バングラデシュの現地NGOでのインターンや、カンボジア、ドミニカ共和国におけるドナー機関で、環境専門家として開発支援業務にかかわる。2013年11月よりプラン・ハイチにプロジェクトマネジャーとして勤務。

●この事業は、外務省の資金を得て実施されています。

大型台風ハイエンの被害を受けた子どもたちに

災害に強い小学校校舎建設プロジェクトが進行中

2013年にフィリピンを襲った台風ハイエンで
被害を受けた東サマール州の
小学校を再建するプロジェクト。
担当者から現地リポートが届きました。

リポーター：テレサ・コナトさん（現地職員）



担当者のテレサさんと子どもたち

● このプロジェクトはプラン一般プロジェクトで支援いただけます。
http://www.plan-japan.org/join/priority/project01_fy16.html

フィリピンを襲った超大型台風ハイエン災害への緊急支援が始まり2年が経とうとしています。ここ東サマールで、私は被災者たちの大きな悲しみ、苦しみや絶望を見てきました。しかし、人間の素晴らしい精神、つらい時にも希望を失わずにいる人々の強さも見てきました。いまここで、社会全体から見過ごされがちな脆弱な人々の声を社会に届け、ニーズを満たす助けとなっていることに充実感を感じています。

日本の皆さん、ハイエン被災地への継続的な復興を支援くださり、ありがとうございます。皆さんの寄付で、安全な学校づくりを東サマール州リョレンテ市のスーン村とピリウ村で進めています。基準に合致した、安全で災害に強い学びの場を子どもたちと教師へ提供することで、質の高い教育を公平に受けられることを目指しています。また、衛生習慣の改善や災害への備えに必要な情報を提供し、災害時における学校と児童の対応能力を高めています。このプロジェクトの担当として、子どもたちを弱い立場におくような危険な状況を改善できていることをとてもうれしく思います。

台風ハイエンを体験して、教師とコミュニティは、災害やその備えについて理解を深めることができました。将来起こりうる災害の被害を抑える、重要な鍵を一様に学んだのです。

BIAAGサポーターになって、楽しみながらファンドレイジングを！

今回は「気軽に楽しみながらプランの活動に貢献できる」とご好評いただいている、
BIAAG（Because I am a Girl）サポーターのファンドレイジング・ボランティアについてご紹介します。

今回ご紹介するBIAAGサポーターとは、BIAAGキャンペーン（※1）をファンドレイジング（※2）で支えてくださっているボランティアの方々のこと。2013年度にスタートし、現在は第4期の活動が実施されています。ファンドレイジング・ボランティアは、例えば学園祭に出店する、チャリティパーティーを開催するといった身近な活動でファンドレイジング（寄付金調達）を実施。お送りいただいた寄付金は、BIAAGキャンペーンのGirl's Project（※3）に活用されます。

活動回数や寄付金額等の制約はなく、誰でもアイデア次第で、気軽に楽しみながらファンドレイジングできるのが、このボランティアのいいところ！　活動開始の手続き等も簡単です。第4期ボランティア（活動期間は2016年5月31日まで）は現在も引き続き募集中。あなたもぜひ、チャレンジしてみませんか？

BIAAGサポーターになるには？

STEP 1　活動のアイデアをプラン・ジャパンに連絡
↓
STEP 2　担当者と連絡を取り合い、応募シートを提出
↓
STEP 3　サポートグッズを受け取り、ファンドレイジング活動開始
↓
活動終了！　寄付金を指定口座に送金。SNS等で活動を報告



ボランティアの方にはサポートグッズをお送りします

BIAAGサポーターに関するお問い合わせ、お申し込みはコチラ！
ファンドレイジング部
Tel：03-5481-7100　Mail：hello@plan-japan.org

BIAAGサポーター体験談　私たち、こんな活動をしました！

自宅サロンのお客さまから〝幸せのお福分け〟

2012年から継続中
井上葉子さん



お客さまと一緒に、活動を続けています

私は自宅サロンでカラー＆イメージコンサルタントをしています。そこで、お客さまにBIAAGについて説明し、受講料の中から初回1件につき500円を、お客さま自身が希望するGirl's Projectへの寄付にあてるという活動を続けています。私はこれを“幸せのお福分け”と呼んでいます。お客さまからも「BIAAGについて聞いたことはあるけれど、支援方法は知らなかったのでうれしい」という声をいただき、とてもうれしく思っています。

手作りの品をフリマで販売 会場ではチラシの配布も

2013年に活動
佐瀬ひとみさん



トラブルにも負けず、がんばりました

2013年12月、友人とともにフリーマーケットに出店。趣味で作っているアクセサリーや家庭内の不用品を販売し、その売上金を寄付しました。ブースにはBIAAGのポスターを飾り、チラシも配布。当日は年末のものすごく寒い日で、交通渋滞に巻き込まれて到着が遅れるトラブルがあるなど大変な思いもしましたが、ポスターを見て足を止めてくださる方など、多くの方々と交流を楽しむことができました。

パーティーを盛り上げるバルーンアートを提供

2014年から継続中
スマイリー・バルーン・プロジェクトさん



子どもたちも興味津々で見てくれます

私たちは女子高校生2人組。とあるきっかけでバルーンアートにハマり、スマイリー・バルーン・プロジェクトを立ち上げました。オーダーメイドでバルーンアートを作り、その売上げの半分を寄付しています。例えば、誕生日やハロウィーンなどのパーティー会場にバルーンアーチを飾ったり、花や犬など定番のバルーンアートを作ったり。大人も子どももみんな喜んでくれるし、パーティーも盛り上がるので、私たちもとてもうれしいです。

※1 P8～9参照　※2 寄付を集める行為のこと　※3 P10～11参照

現地報告　ベトナム少数民族地域

心優しく、仕事熱心な人々と一緒に働けて幸せ！

船越美奈職員（プログラム部）



活動地の子どもたちと

From Vietnam

ベトナム少数民族の教育プロジェクトを担当してもうすぐ3年。プロジェクト終了の時が近づいています。小学校10校の建設は完了し、対象となった110校では、多くの子どもたちが積極的に学ぶようになり、先生方の授業方法も大幅に改善されました。

このプロジェクトの活動地域は、少数民族が暮らす山岳地帯。悪路の長時間移動はとても過酷で、必ず車に酔ってしまいます。私はお酒がほぼ全く飲めないのですが、先生方はなぜかお酒が大好きで、強引に勧められるのも少し大変。また、ベトナム語は発音が非常に難しく、正確に発音しないと理解してもらえない点も大変です。

でも、ベトナムでともに働いてきたスタッフたちは、みな責任感が強く、とても仕事熱心。少数民族の人たちもみんな素朴で心優しく、美しい民族衣装を着ている人たちもいて、見ているだけで楽しくなります。食べ物は何でも美味しいし（ただし、ベトナムの人はよく食べるのに全然太らないので、同じペースで食べたらキケン！）、かつての日本のように、人と人との結びつきが強いのも素敵です。長い間日本を離れていたので、もうすぐ帰国できるのはもちろんうれしいのですが、実際にその日が来たら、この国を離れるのがちょっぴり寂しくなるかもしれません。



前赴任国のラオスで

イベント報告　「国際ガールズ・デー」

第4回「国際ガールズ・デー」イベントを開催！

井上真理子職員（コミュニケーション部）



リハーサルにも力が入ります！

From Tokyo

10月11日（日）に開催された「国際ガールズ・デー」イベントはお楽しみいただけましたか？　4回目を迎えたこのイベントですが、今年はいろいろなご縁があり、一般公開前の映画上映や著名な方々のご登壇が実現し、私たちにとっても大きな挑戦となりました。

イベントで私たちが常に心がけていることは、プランの活動に対し、「大変でかわいそう」といったネガティブな印象ではなく、活動国やそこで活躍する人たちの力強さや魅力を伝え、一緒に進んで行こうというポジティブな気持ちで帰っていただくことです。イベントを通して、そんな仲間が増えていけばうれしいです。



わたしたちがご用意します！（支援者サポート部 寄付金管理チーム）

確定申告にご使用いただく寄付金の領収証明書は、**2016年1月下旬**にお届けします。ご住所に変更のある方は、**2015年12月24日（木）**までにお知らせください！

※詳しくは **19 ページ**のインフォメーションをご覧ください。
なお、領収証明書は、勤務先の年末調整には使用できません。

領収証明書のお届けは2016年1月です ～確定申告による還付金は最大4割！～

皆さまの寄付金は、確定申告により税法上の優遇措置を受けることができます。プラン・ジャパンが公益財団法人に認定された2011年2月1日以降の寄付金は、「所得控除」または「税額控除」のいずれか有利な方式を選択し、寄付金控除を受けることができます。

2015年1月1日～12月31日に受領したご寄付の領収証明書は、2016年1月下旬にお届けいたします。紛失による再発行はできませんので、申告時まで大切に保管してください。なお、以下の点にもご注意ください。

■ 今回発行分より領収証明書の名義を変更される方は、12月24日（木）までに書面（メール・FAX）かお電話にてお知らせください。

■ クレジット・コンビニ決済でのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社からプラン・ジャパンへ入金された日が受領日となります（12月クレジット決済分は、2015年の領収証明書に含まれません）。

■ 寄付金控除は、年末調整で行うことはできません。

■ 一部の自治体においては、個人住民税の寄付金控除の対象となる場合もございます。詳しくは、お住まいの都道府県や市区町村にお問い合わせください。

【ご連絡・お問い合わせ先】
支援者サポート部　寄付金管理担当
TEL：03-5481-6100
FAX：03-5481-6200
Mail：service@plan-japan.org

キャンペーン第5弾！ 使わなくなったモノが、子どもの支援に役立ちます！

古本・CD・DVD・ゲームのネット中古書店「ネットオフ」による、『使わなくなったモノが、子どもの支援に役立ちます！』キャンペーン。毎回、ご好評いただいているこのキャンペーンも、今回で第5弾を迎えます。

本キャンペーンは、ネットオフがプラン・ジャパンのために特設サイトを作成し、「プラン・ニュース」での告知のみを通じて寄付を募っているものです。

多くの皆さまからのご賛同を得て、これまでネットオフを通じていただいたご寄付は、ベトナム、カンボジアなどで実施したプラン一般プロジェクトに効果的に使わせていただいています。

1年のうちで最もチャリティームードが高まるこの時期、途上国の子どもたちを応援しませんか？　多くの皆さまのご参加をお待ちしています！

【キャンペーンサイト】
www.netoff.co.jp/plan
※上記サイトにお申し込みのうえ、物品を段ボールに詰めて発送してください
【実施期間】
2016年1月31日（日）まで
【お問い合わせ先】


給食を食べるカンボジアの子どもたち（第3弾実施時の支援「カンボジア栄養改善プロジェクト」より）

ネットオフ「プラン・ジャパン支援係」
TEL：0120-0202-86
（受付時間10：00～17：00）

あなたも参加しませんか？

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

プラン広島の会 f

「お手紙書き会」
■ 日時：12月19日（土）、2016年1月16日（土）14時～16時
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ3Fまたは2Fフリースペース（広島市中区袋町6-36）
■ 内容：チャイルドへの手紙書き
■ 参加費：無料、申込不要
■ 連絡先：小村
Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

PLAN サポーターズ@EZO

「国際協力フェスタ2015」出展
■ 日時:12月5日（土）　10時～16時(予定)
■ 会場：札幌駅前通地下歩行空間（チカホ）北3条交差点広場
■ 内容：プランの活動紹介、資料配布
※「わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。」「Because I am a Girl」などの書籍も販売予定
■ 連絡先：松澤
Mail：namaskar@jcom.home.ne.jp

fフェイスブック
上記アイコンのある会についてはプラン・ジャパンウェブサイトから各会のページにリンク
トップページ→プラン支援者の方へ→プラン支援者の会
www.plan-japan.org/supporter/plankai/
※ウェブサイトにはイベントの開催報告も掲載しています。ぜひご覧ください。

※「プラン・ニュース」No. 101は、2016年4月中旬にお届け予定です

「プラン・ニュース」が100号を迎えました！

「プラン・ニュース」は、おかげさまで今号、節目の100号を迎えることができました。この機会に、これまでの「プラン・ニュース」を振り返ってみました。

記念すべき第1号（写真❶）は、「フォスター・プラン・ニュース」として1985年1月に発行されました。フォスター・プラン日本事務局は、1983年4月、第6番目の支援国として活動を開始。初めて迎える新年に合わせて発行した第1号は、1,700人あまりのスポンサー（当時はフォスター・ペアレント）へ届けられました。1980年代は、世界の人々が途上国の貧困や乳幼児死亡率の高さなどに目を向け、国際的に支援の機運が高まった時代。日本でもいち早く国際支援の必要性を知った方々が、プランの活動に参加してくださいました。

1993年に発行された第26号（写真❷）では、創立10周年記念イベントの開催を告知。この頃には支援者数が5万人を超え、ユニセフに継ぐ日本第2位の国際支援団体へと成長していました。また1997年には、事務所が世田谷区太子堂から現在の三軒茶屋へ移転しました。

2003年に発行された第59号（写真❸）では、設立20周年を記念したイベントの告知が行われました。2年後の第69号（写真❹）では、「フォスター・プラン」から現在の団体名「プラン・ジャパン」への名称変更をお知らせ。2008年の第77号（写真❺）では、設立25周年の記念行事を特集しました。

そして100号の発行を迎えた今、プラン・ジャパンの活動も32年目となりました。この間、インターネットやSNSの急速な普及により、遠い国の情報もネットを通じて手軽に入手できるようになりました。プランも写真や動画、SNSを介して、活動国の状況に関する情報を、より早く、より多く発信できるようになっています。

2015年は、2001年から国際社会が取り組んできた「ミレニアム開発目標（MDGs）」の達成期限。また、この15年で改善できたこと、達成できなかった目標を振り返り、時代の変化とともに浮上した問題点を含めて2030年までの達成を目指す、「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択された節目の年でもあります。

プランは今後も子どもの権利保護を中心に据え、ジェンダー平等を根底に途上国の抱える問題や発展から取り残された人々に寄り添い、その問題解決のために各機関や団体、政府と連携し、ともに活動していきます。引き続き皆さまのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

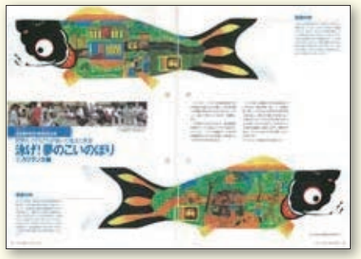


❶



❷

❶ 記念すべき第1号は、わずか4ページ
❷ 10周年となる1993年に発行された第26号
❸ 20周年を記念した特別企画、「泳げ！夢のこいのぼり」が掲載された第59号
❹ 第69号は「フォスター・プランニュース」の最終号。翌号からは「プラン・ニュース」に
❺ 第77号は創立25周年記念号



❸



❹



❺

プランへの寄付となる商品のご紹介

株式会社タニタの女性サポートブランド「La Muse（ラ ミューズ）」

「La Muse（ラミューズ）」はタニタが展開する、女性の健康的で美しいからだづくりをサポートするブランド。20代後半から30代前半の“ちょっと頑張る”女性たちに向けて商品化された体組成計、活動量計、皮下脂肪厚計を活用した健康づくりを提案しています。

2014年11月より、ひとりでも多くの女性の健康づくりをサポートしたいという思いから、Because I am a Girlキャンペーンに賛同し、La Muse商品の売上げの一部でGirl's Projectを支援しています。「La Muse」の詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://www.tanita.co.jp/content/lamuse/#skip


キュートなデザインの La Muse 商品

トーゴ共和国 TOGO

コミュニティ訪問をきっかけに 子どもの頃からの夢が動き始めました！



4歳のとき、テレビでアフリカ飢饉のニュースを見て衝撃を受け、
「いつかアフリカの支援活動に関わりたい」と考え続けてきた今岡さん。
その第一歩として、ケニアとトーゴの女の子と交流をスタートし、
2015年5月には、コミュニティ訪問を兼ねてアフリカへと旅立ちました。

スポンサー：今岡鮎美さん／愛媛県
チャイルド：アフォアさん
（女の子／訪問時15歳）

私は大阪で9年間、ドイツ・フランクフルトの日本人学校で3年間、教師をしていました。それは、いつの日かアフリカで、教育分野の支援活動をするための準備でもありました。ドイツ赴任中の2014年5月、そろそろ夢への第一歩を踏み出そうと考え、プランのスポンサーに登録。2015年3月に帰国後、アフリカを自分の目で見るため、コミュニティ訪問を含む約2カ月の旅行を計画しました。

最初にナミビアなど3カ国を訪れ、観光のほか、支援活動を行っている日本人の方々にもお会いしました。それからケニアのチャイルドを訪問し、エチオピアを経てトーゴに入りました。

コミュニティ訪問の当日は、ホテルから2時間ほどのドライブで現地に到着。大勢の子どもたちが“アユミ、アユミ”と私の名前を連呼する歓迎の歌を歌ってくれる中、アフォアさんと対面しました。彼女は写真で見る以上に綺麗な女の子。私の手をとり、歓迎会場の席まで案内してくれるしぐさがとっても優雅で惚れ惚れしてしまいました。それからご家族に会い、コミュニティを見学し、お母さんの手料理をごちそうに。その後は贈り物を交換し、最後にはみんな一緒に歌って踊って、まるでお祭りのような状態に！ そんな中でアフォアさんが「ずっとココにいてくれたらいいのに…」とつぶやいたと通訳さんから聞き、「なんてカワイイの～！」と大感激でした。

こうしてあっという間に訪問は終了。あとはトーゴを観光して帰国するだけ…のはずだったのですが、実はこの後、今回の旅最大の危機が待っていました。翌日、帰りの飛行機の予約確認をしたところ、席がきちんと取れていないことが発覚。途方に暮れましたが、プランのスタッフが助けてくださったおかげで無事飛行機に乗ることができ、日本へも予定どおり帰国することができました。

今回の旅の収穫は、予想以上に大きいものでした。いろいろな方にお会いし、そこからさらにご縁が広がり、「アフリカで教育支援をする」という夢の実現も見えてきました。その原点にもなってくれた2人のチャイルドは、私にとってとても大切な存在。これからも彼女たちの成長を見守り、きっとまた、会いに行きたいと思っています。

旅のスケジュール

2014年	4月初旬	プラン・ジャパンに訪問申込
	4月中旬	「コミュニティ訪問確認書」受取
	5/7～5/8	関西国際空港～ドバイ～フランクフルト
	5/9～5/14	フランクフルト滞在
	5/15～6/15	ナミビア～南アフリカ～ケニア～エチオピア滞在 ※6/8にケニアのコミュニティ訪問
	6/16～6/25	トーゴ滞在 ※6/19にトーゴのコミュニティ訪問 7:40　アタパメのホテル出発 10:00　コミュニティ到着 15:00　アタパメのプラン事務所に帰着 22:00　首都ロメのホテルに到着
	6/26～6/30	フランクフルト滞在
	7/1～7/2	フランクフルト～ドーハ～関西国際空港

コミュニティあげての大歓迎でした！



● コミュニティ訪問は、出発日の8週間前までにお申し込みください。
手続き方法などの詳細は、ウェブサイトでご覧いただけます→ http://www.plan-japan.org/supporter/visit/

Plan news
2015 Autumn No.100

公益財団法人プラン・ジャパン www.plan-japan.org
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F
TEL 03-5481-6100 FAX 03-5481-6200 service@plan-japan.org

Plan プラン・ジャパン

表紙写真：ザンビアの女子サッカーチーム